



平成24年2月16日

No. 12-022

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

## 贈り物は不況知らず！？

～消費者アンケートにみる愛媛の贈り物、お年玉事情～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称 IRC、社長 山崎 正人）では、このたび下記のとおり、愛媛県内の贈り物、お年玉事情についてアンケート結果を取りまとめましたので、お知らせします。なお、詳細は、2012年3月1日発行の「調査月報 IRC・2012年3月号」に掲載いたします。

### 【調査概要】

愛媛県内の贈り物、お年玉事情を明らかにするために、2011年12月に愛媛県内在住の消費者2,000名を対象にアンケートを実施し、729名から回答を得た（有効回答率36.5%）。

### 記

#### 【調査結果要旨】

1. 2011年にお中元・お歳暮を贈った人の割合は、全体の55.0%であった。年代別にみると、30歳未満は9.9%と低いが、年齢が高くなるにつれて贈る割合も高くなっている。
2. 平均贈答件数は5.4件、1件当たりの金額は4,540円であった。5年前と比較すると、贈答件数、金額ともに増減が少なく、個人でのお中元・お歳暮は底堅く推移しているようだ。一方、今後の見通しはどちらも減らしたい人が多かった。
3. 贈り物をするイベントでは、30歳代はどのイベントでも、贈り物をする人の割合が高い。お中元・お歳暮のようなフォーマルな贈り物以外のカジュアルな贈り物市場では若年層が消費のけん引役になっているようだ。
4. 1年間にかける贈り物の金額は、「10,000～30,000円未満」（34.4%）との回答が最も多かった。5年前と比較すると、「贈る人数の増加」などの自然要因により、「増えた」との回答が「減った」との回答を21.2ポイント上回った。一方、今後の見通しは抑制傾向にある。
5. お年玉をあげているのは全体の86.8%であった。お年玉の総額については「10,000～30,000円未満」（44.9%）との回答が最も多かった。5年前と比較すると、「増えた」との回答が「減った」を29.8ポイント上回った。増えた理由としては、「あげる人の年齢上昇」（62.6%）が最も多かった。一方、減った理由は、「あげる人数の減少」（84.5%）が多く、「家計に余裕がなくなった」は15.5%であり、家計よりも自然要因が影響しているようだ。

以上

## 【アンケート概要】

時期：2011年12月上旬～中旬

対象：県内在住の個人2,000名

方法：伊予銀行支店でアンケート用紙を配布、  
郵送で回収。無記名方式。

回答数：729（有効回答率36.5%）

## 【回答者属性】

性別	男性	27.0%	女性	72.8%
	不明	0.2%		
年齢	30歳未満	14.3%	30歳代	16.7%
	40歳代	25.0%	50歳代	22.9%
	60歳以上	20.7%	不明	0.0%
結婚	独身	26.5%	既婚	73.3%
	不明	0.3%		

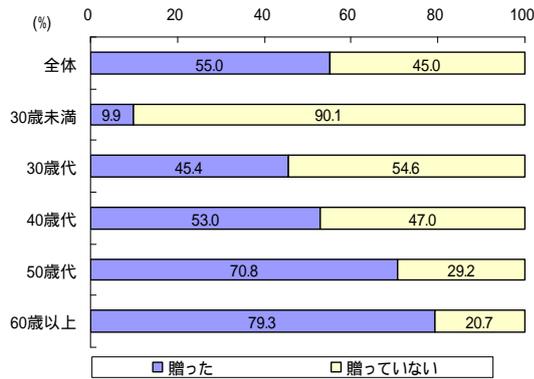
（注）割合は、四捨五入して表記しているため、合計が100%にならないことがある（以下、同じ）。

## 1. お中元・お歳暮事情

### （1）お中元・お歳暮を贈った人

- 2011年にお中元・お歳暮を贈った人の割合は、全体の55.0%であった。
- 年代別にみると、30歳未満では9.9%と低いが、年齢が高くなるにつれて贈った割合も高くなっている。高年齢層ほどお中元・お歳暮を贈る習慣が定着しているようだ。

図表-1 お中元・お歳暮を贈った人(n=709 年代別)

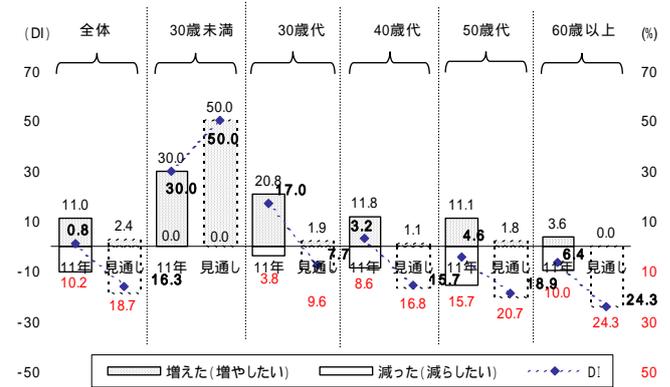


### （2）贈答件数、1件当たりの金額

- 平均贈答件数は5.4件、1件当たりの平均金額は4,540円であった。
- 5年前と比較すると、贈答件数、1件当たりの金額ともにほとんど変化が見られず、個人でのお中元・お歳暮は底堅く推移しているようだ。
- 今後の見通しは、贈答件数、1件当たりの金額ともに「減らしたい」との回答が「増やしたい」を上回っており、抑制傾向にある。

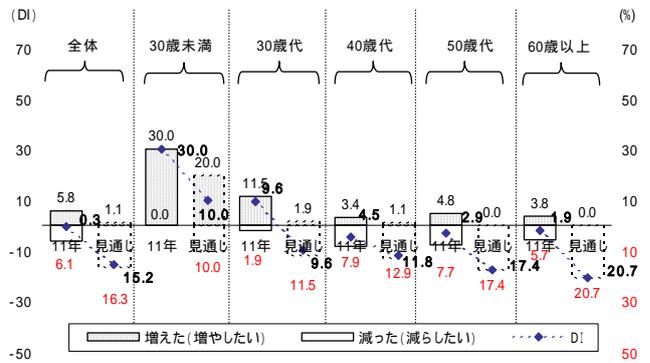
図表-2 贈答件数 5年前との比較と今後の見通し

(n=379 年代別)



図表-3 1件当たりの金額

5年前との比較と今後の見通し (n=379 年代別)



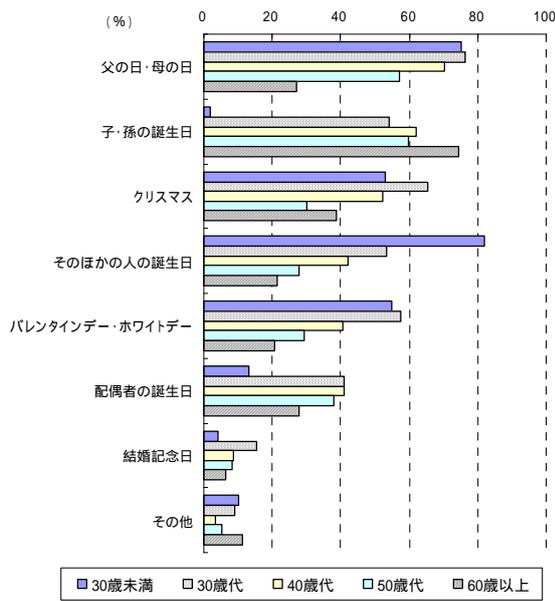
## 2. 贈り物事情（お中元・お歳暮を除く）

### （1）贈り物をするイベント

- 贈り物をするイベントを年代別にみると、30歳代はどのイベントでも、贈り物をする人の割合が高い。お中元・お歳暮のようなフォーマルな贈り物以外のカジュアルな贈り物市場では若年層が消費のけん引役になっているようだ。

図表-4 年代別にみた贈り物をするイベント

(n = 659 複数回答)

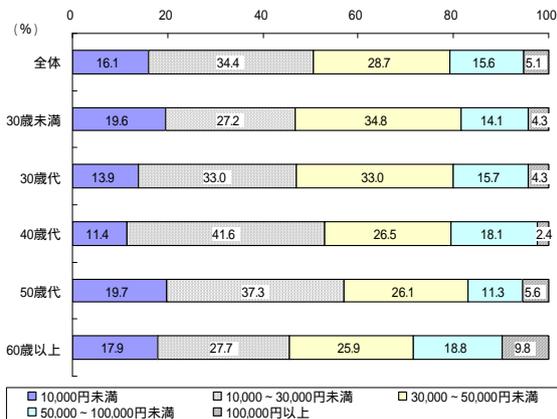


(2) 1年間に贈り物にかける金額

- 「10,000～30,000 円未満」(34.4%) が最も多かった。

図表-5 年代別にみた贈り物に物にける金額

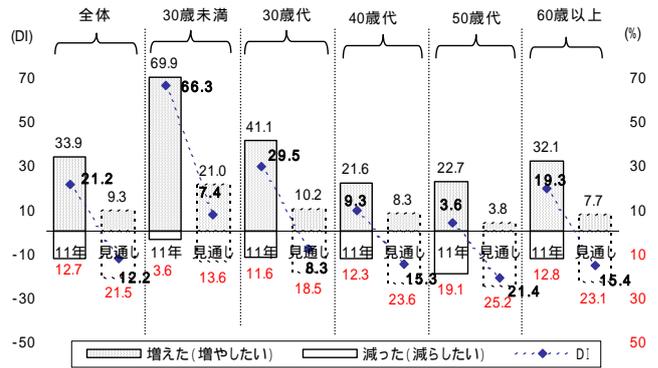
(n = 627)



- 5年前と比較すると、「増えた」との回答が「減った」との回答を21.2ポイント上回った。
- 増加要因は「贈る人数の増加」など自然要因が中心であった。
- 今後の見通しでは「減らしたい」との回答が「増やしたい」を上回っており、抑制傾向にある。

図表-6 年代別にみた贈り物に物にける金額

5年前との比較と今後の見通し (n = 607)

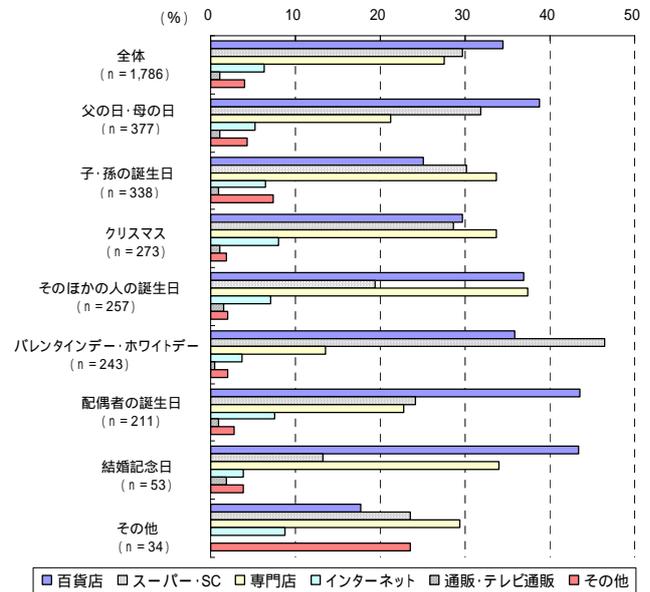


(3) 贈り物の購入場所

- 贈り物の購入場所については、全体的に百貨店や専門店で購入する人が多かった。品揃えやブランド力から「贈り物は百貨店で」と考える消費者は依然多いのかもしれない。

図表-7 イベント別にみた贈り物の購入場所

(複数回答)

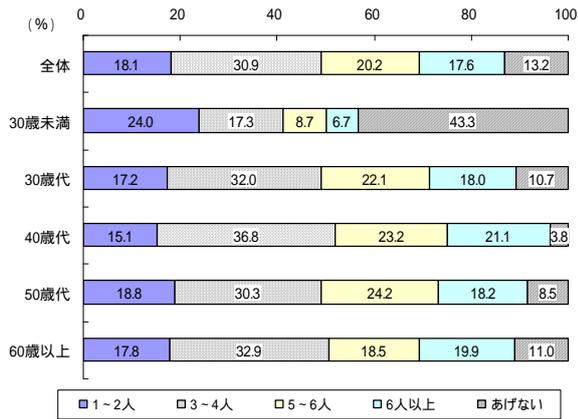


3. お年玉事情

(1) あげる人数

- お年玉をあげているのは全体の86.8%であった。そのうち、あげる人数では「3～4人」(30.9%)との回答が最も多かった。

図表-8 お年玉をあげる人数 (n=722)



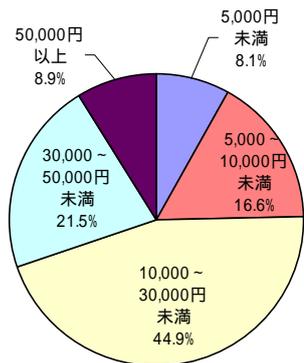
(2) 1人当たりの金額

- 小学生未満は平均 2,892 円、小学校低学年は平均 3,135 円、小学校高学年は平均 3,906 円、中学生は平均 5,649 円、高校生は平均 7,288 円、その他学生は平均 9,887 円、社会人以上は平均 12,344 円であった。

(3) お年玉の総額

- 「10,000 円～30,000 円未満」(44.9%) との回答が最も多く、次いで「30,000 円～50,000 円未満」(21.5%) であった。

図表-9 お年玉の総額 (n=559)

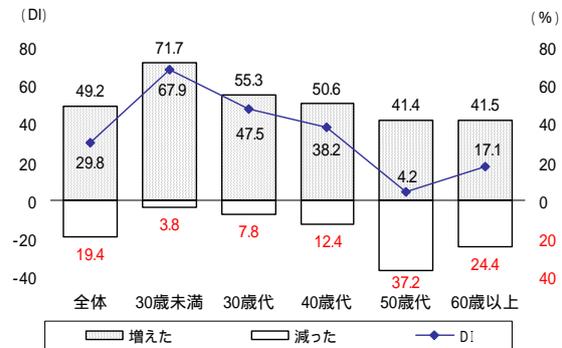


- 5年前と比較すると、「増えた」との回答が「減った」との回答を 29.8 ポイント上回った。
- 増えた理由としては、「あげる人の年齢上昇」(62.6%) が最も多かった。一方、減った理由は、「あげる人数の減少」(84.5%) が多かった。

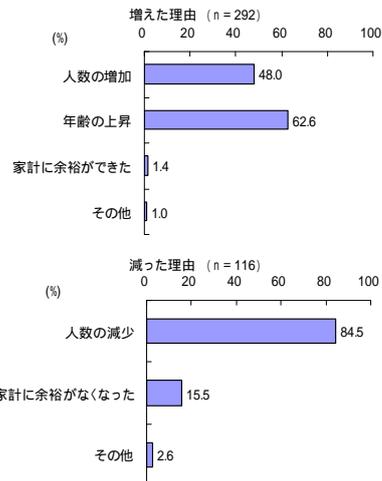
- 「家計に余裕がなくなった」は 15.5%であり、家計よりも自然要因で増減しているようだ。

図表-10 年代別にみたお年玉の総額

5年前との比較 (n=554)



図表-11 お年玉の総額増減理由 (複数回答)



おわりに

今回のアンケートでは、お中元・お歳暮や贈り物は景気動向に左右されることなく、堅調に推移していることがうかがえる結果となった。特に、カジュアルな贈り物は若年層が中心となって、消費をけん引しているようだ。

核家族化やインターネットの普及などにより、人と人との繋がりが希薄になりつつあるとも言われているが、震災を機に、絆を再確認しようという動きも見られる。お祝いや感謝の気持ちを伝える贈り物の習慣が見直され、絆を深めるツールとなることを願いたい。

(國遠 知可)